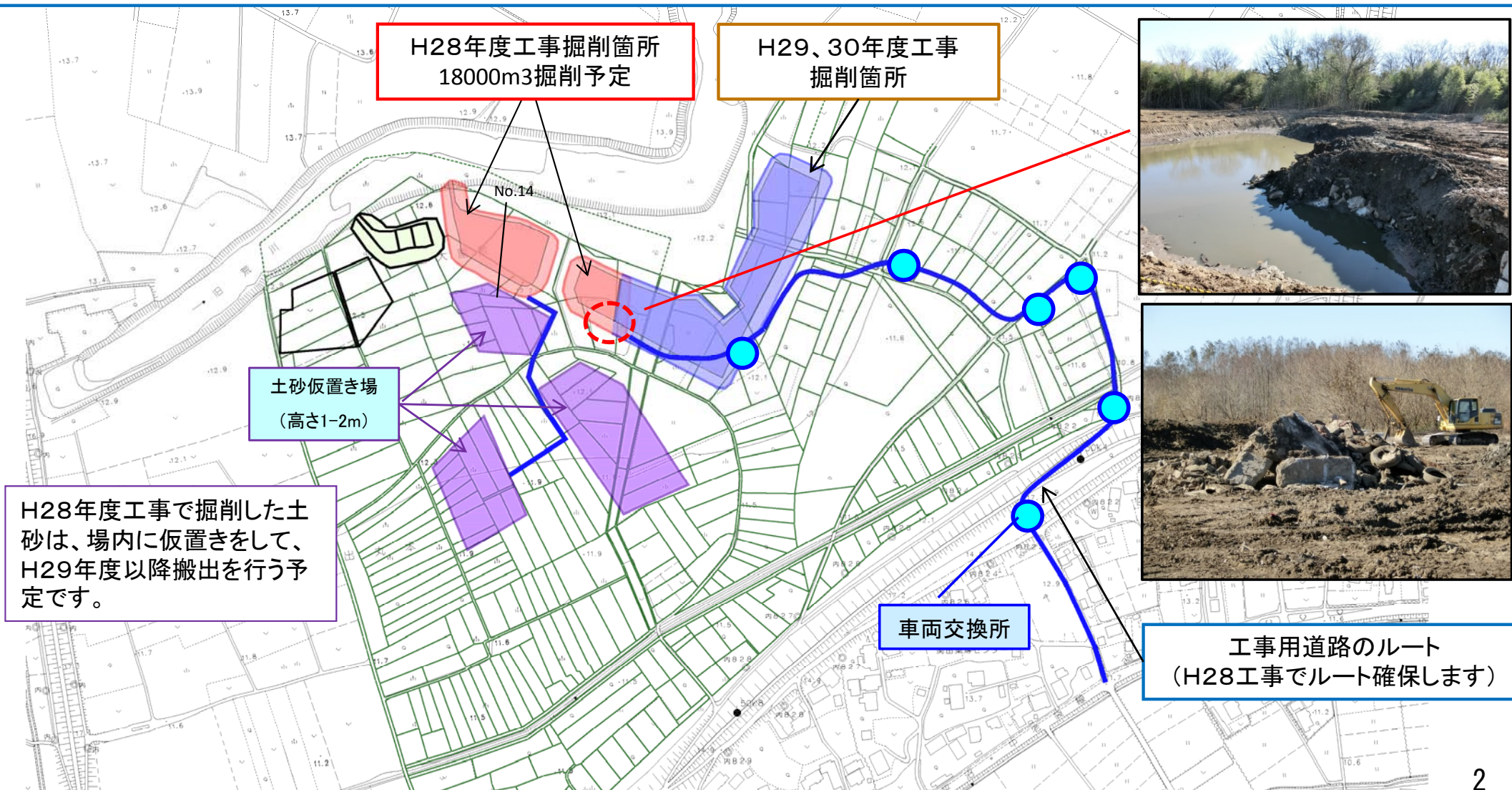


今年度工事箇所状況と今後の対応について

1.下池工事について ～工事の状況～

- 工事期間は、平成28年度から平成30年度の3カ年の予定です。（全掘削量 約4万 m^3 ）
- 平成28年度実施の工事では、赤色着色部分の土の掘削（18,000 m^3 ）と、掘削した土砂を搬出するダンプトラックが通行可能な道路（幅員4m）を作ります。掘削した土砂は紫色着色箇所へ仮置きをして、搬出は平成29年度工事で実施する予定です。
- 今年度の工事でタケの繁茂する地下からコンクリートガラがでてきました。想定外のため、処分費がかかることになります。
- 平成29、30年度の掘削箇所でも同様に掘削すると新たな処分費が必要になると予想されます。



1.下池工事について ～平成28年度工事～

- 平成28年度の工事は、掘削範囲から想定外のコンクリートガラ等の廃棄物がでてきたことから、予定どおりに完成することができません。
- 今年度の主たる工事は12月までとしており工期が少ないこと、ダンプによる土砂等の搬出は、近隣の住民への配慮から極力少なくすることとしており、掘り出した廃棄物を全量搬出することができません。
- そのため、今年度の工事は、これ以上の廃棄物を掘り出す掘削は行わず、掘り出した廃棄物は可能な限り地区外に搬出して処分することとし、残った廃棄物はブルーシートで覆う等の対策を行った上で、土砂の仮置場に存置し、翌年搬出し処分することとします。



1.下池工事について ～平成29、30年度工事～

- 平成29年度と30年度の工事の内容について、方針変更について検討をお願いします。なお、1月に現地開催の委員会がありますので、現地で確認して、方針検討を行っていただきたいと思います。

【今後の方針の試案】

案1) 予定どおり掘削を行う。

- 処分費が増加します。
- シンボル化したコウノトリのために水面のある高さまで掘削ができます。
※モトDではアスベストの場所が狭かったため、その場所以外を掘削しました。
※アスベスト以外のコンクリートガラ等は予定どおり処分しました。

案2) タケの表土を剥いで、ハンノキの幼木の移植を行う。

- 処分費がかかりません。また、掘削土量も減るので、全体的にコストが縮減できますが、水面は確保できません。

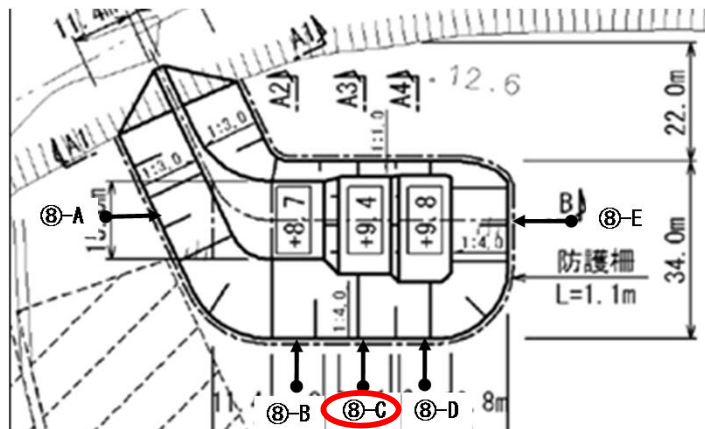
案3) 掘削範囲とタケの表土剥ぎとハンノキの幼木移植の範囲を組み合わせる。

- 水面の範囲が狭くなりますが、処分費を抑えることができます。掘削土量も縮減できます。

※掘削の方針を変更する場合は、3月の協議会で了解をいただきます。

2. ハンノキの幼木移植について

- 下池試験掘削地の上段に試験移植したハンノキの周辺に、約100株の幼木が確認されました。
- これらの幼木を今年度掘削した場所に移植することで、早期のハンノキ林形成が可能となると考えられます。
- これを実施する場合について、その方法・時期についてご検討下さい。



H27.4.24



H28.10.27

